

■ぬまづ近代史点描78

宮内盛重と吉川素水—ある沼津移住旧幕臣の父子—

■企画展のお知らせ

■夏のイベント参加者募集

二〇一七年七月

通巻  
130号

史料館通信  
沼津市明治



(一部拡大)



絵葉書「沼津公園・香貫山ドライブウェイ・ウェー・河口突堤の黒鯛釣」

(当館所蔵)

「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という趣旨のもと、昨年8月11日が「山の日」として、祝日となりました。沼津市のシンボリックな山といえば「香貫山」です。小学校の遠足の定番として登った方も多い、親しみやすい身近な山です。この絵葉書は発行の時期は不明ですが、沼津市役所が作った観光地沼津を紹介するもので、市街からの見慣れた香貫山とは違った珍しいアングルの写真です。おそらく徳倉山の頂上付近から北方向に富士山を望んだものと思われます。整備されたハイキングコースを歩いてみると四季折々の植物が豊富で、頂上の展望台からの眺めは、富士山、愛鷹山、街中を堂々と流れる狩野川、そして碧く広がる駿河湾が一望できる、まさに絶景です。「山の日」に一度訪れてみてはいかがでしょうか。



らであろう。

勸番組とは無役の藩士たちを管理監督するために設けられた組織であり、支配世話役頭取・世話役・世話役介らがその監督者であった。類とは班のことであり、沼津勸番組は一番から十九番の類に細分されていた。同じ一番類の世話役介、全一九名の中には、撤兵護衛隊においても同僚だった松崎和一郎がいた。

明治四年（一八七二）の廃藩置県により、元静岡藩士たちは東京へもどる者、静岡県内に残る者に分かれ、それぞれ自活の道を講じることとなった。翌年の戸籍制度発足により、通称・諱の使い分けは止められ、名前は一人ひとつとされたが、禮三はその時、盛重という名に決めたと考えられる。明治九年（一八七六）六月に沼津・日枝神社が作成した「日枝神社氏子帳」には、沼津駅前町一五番地の住人として「宮内盛重」の名が載り、「家族七人 内男三人・女四人」と記される。

その後も盛重は沼津に住み続け、明治一五年（一八八二）時点では沼津城内町の町会議員一九名の一人に選出されていた。城内町は武家屋敷の跡地で、土族の集住地区だった。盛重が亡くなったのは明治一七年（一八八四）一月四日、六〇歳だった。菩提寺は沼津藩主水野家と同じ、東京小石川の真珠院だったが、墓は谷中霊園に建てられた。定善院高雲盛松居士の戒名を彫った墓石が現在も立つ。すぐ隣には岩橋教章家の墓もある。

さて、幕府海軍で学んだ弥重郎という名の息子のほうである。戊辰の際、彼も父と同様、脱走・抗戦という道を選んだ。ただし海軍に属したため、脱走は慶応四年八月、榎本武揚率いる旧幕府艦隊の一隻、運送船美加保丸に乗り組んだのだ。しかし、暴風雨のため美加保丸は銚子沖で沈没し、六〇〇名余の乗組員とともに命からがら上陸した彼は密かに江戸にもどったらしい。

このいきさつは、子孫宅に伝来した明治二年一月一日六日付吉川禮眠宛岩橋新吾（教章）書簡から判明する（現在、この書簡の原本は函館市中央図書館の所蔵となっている）。艦隊の別の船で無事、箱館にたどり着いた岩橋は、美加保丸に乗っていたもの、その沈没後は別の手段で後から箱館に至った剣豪伊庭八郎から、沈没時のようすを聞き、弥重郎が無事だったこと、そして江戸へ帰ったことを知ったのである。岩橋は箱館戦争を戦い、敗戦後は幽閉され、函館で謹慎生活を送っていたのであるが、この手紙はその時

に書かれ、東京に送られた。受取人の吉川禮眠なる人物の素性は不明であるが、「弥重郎様御義は如何被成候哉」、「宮内禮輔様御義ハ駿河表へ被為入候事と奉存候」云々などといった文面から、宮内父子にごく近い存在だったと考えられる。

その後の弥重郎の足取りははっきりしないが、先に紹介した明治九年時点での盛重一家七人の中に含まれているとすれば、少なくともいつかは沼津に移住したのではないかと推測される。静岡藩時代の沼津には、美加保丸に乗っていた中根淑・山田昌邦・片山直人・吹田鯛六らがおおり、いずれも沼津兵学校の教授や生徒になっていた。

たぶん明治五年以後、弥重郎は行廣という名に改めた。そして上京し、明治政府の内務省に出仕した。「宮内行廣」の名は、政府職員の名簿「官員録」に掲載され、土木寮十級出仕（明治九年）、土木局八等属（一〇年）、六等属（一三年）、四等属（一七年）といった具合に配属部署と職名を追うことができる。いずれも族籍は「シヅヲカ」「静岡」とあり、静岡県に本籍を置いたことがわかる。幕府海軍で身に付けた理工系の技術を土木分野で活かしたものと思われる。

ところが、毎年・毎月のように刊行される官員録によれば、明治一七年（一八八四）一〇月刊行のものでは「静岡宮内行廣」だったものが、一八年（一八八五）一〇月刊行分では「静岡 吉川素水」と変わる。前後のつながりから判断し、別人ではなく、宮内行廣が吉川素水と改名したらしい。名前ばかりか姓まで変えた理由は謎である。同時期の父盛重の死が関係しているのかもしれない。



内務省時代の吉川素水か  
(吉川圭介氏所蔵)

宮内行廣改め吉川素水は、その後も大阪築港などに従事し、土木監督署技手をつとめ、退官したのは明治二八年（一八九五）だった。嘉永五年（一八五二）二月の生まれとする資料もあるが、墓石には一八五〇年生まれとある。いずれにせよ戊辰戦争時には十代の少年だったことになる。亡くなったのは昭和二年（一九二七）七月一八日である。



晩年の吉川素水  
(吉川圭介氏所蔵)

素水の息子吉川一水（一八八一〜一九四六）は、内村鑑三門下のクリスチャンであり、昭和の戦時下にも軍国主義に批判の眼差しを向け、ひたすら信仰を貫き通した。そして、一水の孫が女優大竹しのぶである。

素水の墓は、平たい石で、戒名ではなく俗名のみ、そして生没年が西暦で記されている。息子の影響を受けたのであろう、晩年の大正一〇年（一九二一）に洗礼を受けたらしい。

この小文は、二〇一七年一月二六日放送、NHKテレビ・ファミリヒストリー「大竹しのぶ」のため、番組内では使われなかったが、調査協力した際の諸資料にもとづき執筆したものである。資料所蔵者である吉川圭介様には深く御礼申し上げる次第である。（樋口雄彦）

#### 〈参考文献〉

『沼津新聞』明治一五年二月一六日号、『新訂増補国史大系52 続徳川実紀 第五篇』（一九六七年、吉川弘文館）、『文京区史』巻二（一九六八年、一九八一年二版）、『沼津御役人附全（復刻）』（一九八〇年、沼津市立駿河図書館）、『近世庶民生活史料藤岡屋日記』第一三巻（一九九四年、三二書房）、樋口雄彦「沼津兵学校附属小学校教授永井直方の日記」（沼津市博物館紀要）23（一九九九年）、樋口雄彦「江原素六の戊辰時脱走抗戦関係史料」（沼津市博物館紀要）33、二〇〇九年、『正智遺稿』（一九二一年、岩橋章山）など

# 沼津の学校

はじめて物語

誰もが通ったことのある「学校」の  
知っているようで知らない歴史を紹介します。

まずはみなさんに質問です！

【問】沼津は日本ではじめて小学校ができたところである。  
○か×か？

【答】実は○なんです。

明治元年 12 月に徳川家兵学校（沼津兵学校）の附属小学校が開設され、翌月、明治 2 年 1 月に開校しました。これが日本初の「小学校」なんです（諸説あり）。当時の沼津は教育の面で最も先進的な土地だったんですね。そして、その附属小学校の系譜を受け継いでいるのが今の沼津市立第一小学校です。さあ、学校の歴史を紐解いてみましょう。

## 【歴史講演会】

日時：8 月 20 日 (日)  
14 時～15 時 30 分  
(開場：13 時 30 分)

講師：工藤 達朗氏

(前沼津市教育長)  
演題：沼津発の学校づくり  
教育長 12 年の軌跡と  
これからの沼津の教育

会場：当館 2 階講座室  
定員：80 名 (先着順)  
申込：7 月 22 日 (土) 9 時より  
電話または直接

当館は「キッズアートプロジェクト  
しずめの」参加館です。館内の小学生  
は、ミュージアムパスポートを持って  
来てね！無料になるよ！

## 【ギャラリートーク】

展示会場で学芸員が解説します。

日時：8 月 5 日 (土)、8 月 26 日 (土)

いずれも 11 時から

\* 申込・参加料は不要。

但し観覧料が必要です。

## 【体験講座

昔のノートを作ろう！！

和紙を糸で束ねた（和じ）ノートを作ってみませんか？

日時：8 月 18 日 (金)  
①10 時～ ②14 時～

会場：当館 2 階講座室

対象：小学 5 年生～中学 3 年生

定員：各回 10 名 (先着順)

申込：7 月 22 日 (土) 9 時より

電話または直接

\* 参加料・持ち物は不要。



明治史料館



# 夏のイベントへ GO!



参加者募集！

## 戦時中のくらしを体験しよう

8 月 3 日 (木)

- ☆ 対象者 市内在住・在学の小学 4・5・6 年生
- ☆ 時間 10:00～15:00
- ☆ 内容 戦時中の話を聞く  
「すいとん」を作って食べる  
高角砲部隊の弾薬庫跡の見学  
(雨天時は展示室で説明)
- ☆ 持ち物 筆記用具、軍手、タオル、お箸、  
お椀、飲み物、帽子  
保険料 24 円 (当日集めます)  
\*汚れてもかまわない服装で  
来てください。
- ☆ 申込み 7 月 22 日 (土) 9 時から  
7 月 30 日 (日) 17 時まで

## 平和を考える戦争史跡めぐり

8 月 9 日 (水)・8 月 11 日 (金)

- ☆ 対象者 市内在住・在学の小学生・  
中学生とその保護者
- ☆ 時間 8:50～16:00  
(沼津駅北口または明治史料館に集合)
- ☆ 内容 御成橋の被弾跡、海軍技研の地下工場跡、  
御用邸の防空壕、戦時疎開学園の建物  
などをバスで回ります。
- ☆ 持ち物 弁当、飲み物、筆記用具、懐中電灯、  
タオル、帽子  
保険料 1 人 24 円 (当日集めます)  
\*汚れてもかまわない服装で  
来てください。
- ☆ 申込み 7 月 22 日 (土) 9 時から  
7 月 30 日 (日) 17 時まで  
電話または直接受付 (各 先着 23 名)

## 高校生のための一日学芸員体験講座

8 月 8 日 (火)

- ☆ 対象者 市内に在住もしくは通学している高校生
- ☆ 時間 10:00～15:00 (集合 9:50)
- ☆ 内容 ①講義 「博物館」と「学芸員」  
②見学 展示室・館内施設の見学  
③実技 博物館資料の取り扱い方  
(所蔵資料を実際に扱います)
- ☆ 持ち物 筆記用具、昼食 \*汚れてもいい服装
- ☆ 申込み 7 月 22 日 (土) 9 時から  
電話または直接受付 (先着 10 名)

## 沼津市明治史料館通信

第 130 号

平成 29 年 7 月 25 日

編集・発行 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂 372-1

TEL 055-923-3335

FAX 055-925-3018

印刷 みどり美術印刷株式会社

